（別紙4）　　平成　28　年度

グループホーム（1ユニット）用
（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人　寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1－2－12
訪問調査日	平成29年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成28年5月より『オレンジカフェ・らくえん』を毎月第二土曜日に実施するようになり、地域のボランティアの協力もあって毎月開催出来ています。認知症を抱える家族の憩いの場であったり、各種専門員がいる中で相談の場であったりと地域に広がっていって貰いたいと力を入れています。施設も田畑に囲まれのどかな自然豊かな場所にあり、中庭で季節の野菜等を作り食卓に運んでいます。
理念にもあるように、地域に開かれた施設として地域高齢者福祉に貢献する一つのツールとして活用しています。家庭的な雰囲気の中で、安らぎと幸せに満ちた空間の提供に努め、入居者一人一人が毎日笑顔で安心して暮らせる様に、職員も笑顔を忘れず、入居者の思いに寄り添い援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、中央自動車道南インターチェンジに近く交通の便も良い所である。建物周辺は、のどかな田園が広がり、季節の移り替わりが実感できる環境である。建物の2階は、地域密着型の特別養護老人ホームが併設されている。1階の共有空間からは、中庭に出られ天気の良い日には、お茶を飲みながら外気浴を行ない良い空間となっている。法人の理念でもある「人間性の尊重・安らぎと幸せに満ちた空間の提供・地域高齢者福祉」を図れるように、管理者始め職員は地域に開かれた家庭的な雰囲気の中で利用者が過ごせるよう寄り添い、支援に取り組んでいる。また、ISO9001の認証を取得し、サービスの質の向上に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を、事業所理念として実践に繋げている。	法人としての基本理念を基に、毎月１回行われる全体集会で理念の唱和を行い実践につなげている。ユニットでは理念を掲示し、目標とし「笑がお」をつくり上げて、全職員が入居者一人ひとり、毎日が笑顔で安心して暮らせるよう寄り添いながら全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りは積極的に参加し、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	毎月第2土曜日「オレンジカフェ」を開催し、職員の手づくりの食べ物で天気の良い日には中庭で楽しみ、認知症の方やその家族、ボランティアの協力で認知症の方が一緒に参加し、入居者と共に交流して事業所の様子を知ってもらう機会となっている。利用者は地域の行事やお祭り等にも参加、職員は河川の清掃活動に参加し、地域との交流を積極的に」行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年5月より開催している、オレンジカフェをとおして、地域の方々との交流の場となるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一度、地域密着型特養とグループホームとで運営状況を報告し、意見交換を行っている。	運営推進会議では、事業所の行事の様子や研修の取組みなどの報告を行ない、それに対する意見などを聞いている。面会を禁止することに意見があった際には、インフルエンザの流行時期には面会を禁止し入居者への影響を配慮して行っていることを、理解が得られるように説明している。また、ベッドの空き状況などを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症を考える検討会への参加により、市（町村）との連携が取りやすくなっている。	市の包括支援センターが実施する会議に参加することで、様々な職種の方との交流がある。グループホームにも見学に来てもらったり、介護高齢課の担当者とは、認定の更新時に状況を伝え相互に交流をしている。また、オレンジカフェ開催のポスター作りには協力してもらい、常に情報交換をし積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の施設内研修の中に、身体拘束の研修を入れる事により、職員全員が参加して正しく理解し援助している。	年1回、身体拘束をテーマに研修会を行ない、全職員が身体拘束の対象となる具体的行為の徹底理解が図られている。スピーチロックに関しては、職員が気が付いた時に注意ができる関係性が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修でも取り上げ、虐待について勉強しユニットミーティングにおいても職員が自覚を持って援助できるよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方には、必要に応じ都度支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に納得して理解して頂けるよう十分説明を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見箱を設置し、年二回の家族会においても意見交換を行い、改善すべきところは直ぐに反映している。	家族会の行事・面会時に家族が事業所に来る機会が多く、情報・近況を伝え常に意見等を言ってもらえる関係が出来ている。職員の異動の際に新しい職員の紹介が無いなど、家族からの意見があり、面会時には職員は自己紹介をするように対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや個人面談等を使い、意見や相談を受け都度反映できるよう環境を作り努力している。	個人面接や日々の中で意見を聞く機会を設け、管理者や介護指導員とコミュニケーションを図っている。職員からは、居室の壁紙交換、加湿器の修理などの要望があり、職員の意見を活かし運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給があり、長年勤務者表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回は職員全員が施設外研修に参加できるよう勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や、市町村主催の研修・会議等に参加し交流できるよう努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の現状を理解し、傾聴しながら、安心した生活が出来るように訪問調査等は慎重に対応し、不安な気持ちを和らげるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人は勿論のこと、家族が一番困っている事を傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要としている支援が何なのか傾聴し話し合う事で見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時間・お茶の時間・レクリェーションの時間等を利用し、コミュニケーションを図り支えあっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームらくえん倶楽部**　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事やユニット行事に参加して頂き、面会時には近況を伝え本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の自宅や地域を巡る事により、回想できたり、馴染みの人にはいつでも来苑出来るよう環境を整え対応している。 地域の祭りへの参加は、馴染みの方との交流が出来る場でもある。	レク委員が設けてあり、バスハイクを企画して、車椅子の利用者が全員参加できるように支援している。住んでいた近所の方が毎週訪問し、リハビリを兼ねて一緒に散歩をしている。また、家族と一緒にお墓参り、馴染みの理容院に行くなど継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で休まれている以外は、フロアにおいてカラオケをしたりゲームをしたりと、入居者同士がいつでも関わっていられるよう職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても同じ地域に住んでいる為、施設を訪ねてくれる家族もいたり、必要があればいつでも相談し支援出来る体制を整えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員が計画書を作成する為、家族の意向や本人の要望等は聞いている。 月に一度のミーティングにおいても、個々にカンファを実施している為、職員全員がその人の思いや意向を共有出来ている。	日々の関わりや会話の中から把握し、食事の時や入浴時など折に触れて利用者の思いや意向を推し測り対応している。意思疎通が困難な方には、家族などから情報を得るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴を書いて頂いている。 会話の中からも今までの生活や生活環境等は把握できるので、日々援助しながら把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファ等で情報共有していく中で、一人一人の現状を把握し統一した援助が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がケアプランの評価を行い、担当者会議やモニタリングを行い計画書を作成している。	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を聞き反映させている。また、利用者一人ひとりの担当職員が、日頃の状況を把握して情報を共有し、関係者と話し合ってアセスメントとモニタリングを繰り返しながら介護計画を作成している。介護計画には身体介護のみならず、楽しみごとのプランも取り入れ実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や、PCでの個人記録等で情報を入手し、ヒヤリハットを書く事で見直しに繋げている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームらくえん倶楽部　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本を把握したうえで、臨機応変に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等が入る事で地域資源を利用し、短い時間でも楽しい時間が持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者9名中3名が月に二回の往診を受けている。 6名は、家族の付き添いのもと受診している。 急変時は家族に連絡を取り判断してもらい対応している。	入居時に利用者、家族への説明や協力医と話し合って、これ迄のかかりつけ医から、事業所の協力医を主治医としている方もいる。介護度が重い方は往診てもらい、往診以外で受診する場合は、家族が同行して管理者が医療機関に状況を伝え、結果についてもお互いに情報を共有し、個人記録に記入し全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている特養があるため、看護師が在中しているので報告・連絡・相談がいつでもできる状態にある。 夜間もオンコール体制が整っている為、適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医が近隣にあるため、入院退院がスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの出来るところである事を説明し、書面にて意向を把握している。体調の変化があった時は都度確認し必要があれば見直しを行っている。	法人共通の看取対応についての指針があり、契約時に説明し家族の意向を確認している。入院するなど状況の変化の都度、家族に確認している。協力医・法人併設の看護師・訪問看護・栄養士・等の協力体制が整い、これ迄にも何人かの看取り対応を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で応急手当などの研修をし、ユニットではミーティング時に酸素ボンベの使用方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で避難訓練を行っている。	年3回法人全体で避難訓練を行ない、1回は地域の消防署より職員を対象に講話を受けている。夜間訓練は参集訓練を行い、連絡網の確認をし今後につなげている。また、知人の消防士がボランティア数名で参加して、ADL・散水訓練・毛布を使った担架作りなどの指導を受けた。災害に備えた備蓄品等の準備がしてある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるように、人間性の尊厳を守り、言葉掛けには常に注意しスピーチロックにならないよう対応している。	トイレ誘導時は耳元でさりげなく、プライバシーを損ねないような言葉かけをしている。トイレ使用時や部屋のドアは、プライバシーの確保のため閉めるよう全職員が配慮している。援助が必要な時は、本人の気持ちを考えてさりげないケアを心がけ、そばに座ってゆっくり話を聞くように努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームらくえん倶楽部

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今から何をするのか、行動する時は必ず声掛けを行い選択できる環境で対応している。 発語に注意し、ことばの中から思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で援助するのではなく、入居者の意向を傾聴し支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が用意してくれている衣類を、季節に応じ選択できる方には選択して頂き、職員も身だしなみには十分注意をしている。 理髪も月に二回訪問美容師が来ている為、家族に伺いながら利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒に出来る入居者がいない為、下準備や配膳や片付けを出来る人が出来る事をして一緒に楽しみながら行っている。	法人の管理栄養士が献立を作り、食材の注文は職員が行っている。利用者個々の力を活かし、下準備・配膳等できる事を職員と一緒に行っている。外食は車椅子の利用者と一緒に出掛け、またバスハイク時は、昼食を作って持参し野外での楽しい食事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に記載することで食事量を把握し、水分補給も午前午後の二回お茶の時間を作っている。 ムセが見られる方にはトロミを付け対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、入居者一人一人に合った口腔ケアにて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のオムツ対応がある方でも、日中はトイレ誘導を行う事で自立支援に向けている。	排泄パターン表から日常の生活リズムを把握し、夜間おむつ使用の利用者も、日中はリハビリパンツやパットに替え時間を決めて誘導する事により、トイレで排泄できるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別ケアで散歩や歩行訓練を行い、椅子に座ったままでも出来る体操をしたり身体を動かす事を工夫するよう心掛けている。 三日排便がない時は、看護と連携し主治医に相談して排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設定せずいつでも入浴できる環境にしてある。 本人の意向を伺い一週間に二回は入浴できるよう声掛けを行い対応している。	毎日いつでも入浴でき、希望に沿った支援が行われている。入浴を拒否する利用者は、職員がタイミングを見ながら声掛けをしているが、理由が複雑な場合には家族に状況を話し、了解を得て利用者に添った対応をしている。冬季はバスクリーン使用したり、シャンプー・リンスは利用者の好みな物を使用している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームらくえん倶楽部

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　花梨　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は、意向に沿った対応で援助し休んで頂いている。 夜間も不穏になって眠れない方には眠剤を導入する事もあるが、安心して休めるよう傾聴に努め対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに服薬説明書を置く事で、いつでも確認が出来る。 服用については、指差し確認を行う事でしっかり飲み込みまで確認している。服薬事故が無いよう十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意向を把握したうえで、買い物や外出（ドライブ）を行っている。家族の差し入れの嗜好品を提供することで喜んで頂けている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務状況により外出が出来ない日もあるが、家族の協力やボランティアの方の協力を得ながら外出できるよう計画を立てている。	天気が良ければ日常的に午後から職員と一緒に散歩をしたり、中庭でお茶や昼食をして、流動的に対応し気分転換をしている。また、社会福祉協議会のボランティアの協力で車椅子の利用者と一緒に利用者全員で外出し、五感刺激の機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金制度があるため、必要に応じた対応が出来ている。 本人がかばんを持ち、お金も持っている方もいるが、家族も把握しておりトラブルは起きていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度、希望に応じた柔軟な対応が出来ている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々をフロアに飾り、正月・クリスマス・ハロウィン等イベントごとに工夫をし、季節が感じられるよう努力している。	共用空間は明るく中庭にすぐ出られ、天気の良い日には外気浴などで気分転換が図れる。廊下には外出時の写真が飾ってあり、厨房から調理の匂いがして家庭的である。乾燥する冬季には、加湿器を使用し利用者が気持良く過ごせる様に配慮している。浴室は、両サイドから介助できる個浴で、入浴用介助枕なども用意され職員の工夫が見られ、居心地良く過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は決まっているが、TVを見たり、新聞を読んだり、囲碁をしたりと思い思いに席は移動し過ごしている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具を持ってきて頂いている。 箸やご飯茶わん、お椀も今まで使用していた物を持参して頂き、居心地良く過ごせる様配慮している。	広い居室にはベット・洗面台・加湿器・湿度計付き温度計・絵画、整理ダンスが備え付けられている。明るい居室には、利用者が近くの川で釣って来た魚など水槽で飼育しており、それぞれの利用者が居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットを出ても、併設の特養があるため、頻繁に交流している事もあり顔馴染みの職員がいるので安心して生活できている。		